

## 令和4年度 第2回滑川市DX懇話会 議事概要

日時：令和4年12月23日（金）18：00～19：40

場所：滑川市役所本館3階大会議室

### 【委員】

役職	氏名	備考
滑川市自治会連合会 会長	澤田 隆之	
滑川市社会福祉協議会 常務理事	斎木 秀則	
富山医療福祉専門学校 専任教員	橋本 武憲	(オンライン)
滑川商工会議所 専務理事	杉田 隆之	
滑川市観光協会 会長	早川 祐一	
株式会社笑農和 代表取締役	下村 豪徳	(オンライン)
滑川市教育センター 所長	松田 弘人	
株式会社TAM 専務取締役	稲場 康晴	
富山大学名誉教授	山西 潤一	(オンライン)
市民公募委員	荒井 誉利香	(オンライン)
市民公募委員	岡部 誠	

滑川市最高デジタル責任者 (CDO)	柿沢 昌宏	会長 (副市長)
滑川市最高デジタル責任者 (CDO) 補佐官	岩本 健嗣	富山県立大学工学部 情報システム工学科 准教授 (オンライン)

### 【事務局】

教育長	上田 良美	
総務部長	石川 久勝	
産業民生部長	黒川 茂樹	
建設部長	岩城 義隆	
教育委員会事務局長	上田 博之	
企画政策課長	小川 勇二	デジタル化推進班長
総務課長	櫻井 雄一	
財政課長	長崎 一敬	
デジタル化推進班員	8名	

## 【次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 説明  
滑川市DX推進計画の素案について
- 4 意見交換
- 5 閉会

## 発言要旨

□会長あいさつ

□資料説明（資料1・2）

□説明事項等に対する意見交換

委員：

5年後のビジョンということだが、Wi-Fi環境の充実とあるが、全国的にフリーWi-Fiはあるが、そこまで利用されていないのが現実。5年後のネット環境の変化も見据え、コストをかけて維持・運営していく必要があるか考える必要がある。

また、データの収集・活用については、私自身がデータサイエンティスト的な仕事をやっておりデータを集めて共有しているが、重要なのはデータそのものではなく、データとデータの流れである。総務省統計局でもデータは数多く掲載されているが、データ単体では使いにくく、人口統計や商業統計など、データ間のつながりを分析しないと活用という点では難しい。そういうところの深掘りが必要だと思う。

要望になるが、ある程度市民の個人情報・機密情報を集めた市町村レベルで管理できるデータベースを用意してもらった方が、利便性が高く、データの活用が進むと思う。

岩本 CDO 補佐官：

今、委員が言われたのは、市民そのものの属性であったり、キャッシュレスを進めていく上での購買履歴だったり、そういったものを指しているのか。

委員：

プライベートの活動の情報ではなくて、主に市町村に関係するような情報である。例えば住民票だとかそういったデータを、例えばマイナンバーカードなどと紐づけて利用できるようにすると、マイナンバーカード自体の普及にもつながるのではないかと考えている。

岩本 CDO 補佐官：

マイナンバーカードで、自分の住民票が取得できるとかいったことの少し延長線上にあるような、行政が持つ「自分自身に関する履歴」みたいなものを、オンラインで取

得できるようなデータベースの整備というようなイメージと理解した。

会長：

ありがとうございます。大体イメージができた。他にはなにか意見はないか。

委員：

私は、商工会議所の代表として来ているが、11月に市内の経済界からの要望ということで、DX関係で2件市に要望した。

その中で1件はデジタルインフラの増強ということで、市内ではNet3による光化が完了し、ようやく私どもの会館も、今日、引込み工事が終了したところで、市内の企業等も、これからだんだん引込み工事が完了して使えるようになってくるという状況である。そうした中で、今ほどのようにWi-Fi環境は必要ないのではという御意見もあるかもしれないが、まずはWi-Fi環境を進めていくのも良いのではないかと思う。本当に必要のないものならなぜ全国でこれだけWi-Fi環境が用意されているのかということもあるし、より利便性を追求するという意味では、あったほうが良いのではないかと思っている。

もう1件は、市内企業に対する、DXの取組への支援制度の創設ということで要望した。これについては、市内の中小規模事業者・個人事業主の方々は、まだまだデジタル化が進んでいないのが現状。そういう中で、働き方改革への対応ということで、例えば勤怠管理や総務・税務関係などのリモート化を始めてこうという現状。

もう1つは、業務環境や生産性の向上を見た場合に、AIを活用した需給予測や検査、品質管理工程のオートメーション化、そういったことも視野に入れて、支援制度を創設していただきたいと思っている。

それから、重点施策③の市役所のDXについては、いろいろな意見があると思うが、まずはオンライン申請の対応をどんどん進めるところから始めていただきたい。どこかの議会ではコンビニでの住民票交付に反対する方がいたということで、10年以上遅れているような考えの方もおられるということだが、まずはオンライン申請、それから通知の電子化などから逐次進めていただきたい。

会長：

Wi-Fiについては、各委員で意見が異なる部分もあったが、岩本先生はどう考えているか。

岩本 CD0 補佐官：

両者の言い分とも理解でき、市役所内で議論した際も同じ話になり、どちらの意見もあった。いらぬのではないかという意見もある一方で、実際に必要とする利用者が一定数いるというのでも分かっており、やっぱり公共の施設でWi-Fiが使えることで、便利になるという部分はある。なぜ、いらぬという意見があるかということ、今のスマホの契約では、上限なしのプランを使う人が増えていると認識しており、いわゆる

ギガを余り気にしないで使ったり、Wi-Fi ルーターを仕事で持ち歩いたりする人も増えていると思っている。ただ、それはもしかすると、ピラミッドの上のほうの話であって、まだまだ限られた容量の中で情報収集している人もいるかもしれない。

なかなか結論は出せないが、私自身は、公共施設なので、市内中に Wi-Fi を張り巡らせるとかではなく、ある一定レベルのサービスを提供するということが大事だと認識している。敢えてここに5年後のビジョンとして書くことなのか疑問に思う部分もあるが、もう少し丁寧に「こういったケースもあるのでこうしましょう」というような考え方を書くということが必要なのかもしれないと感じている。

委員：

私自身は、少なくとも公共の施設にはWi-Fi はつけるべきだという考えである。将来的に、5年後あるいはもっと先に、そういう環境がなくてもいくらかでもアクセスできる環境が進んでいくことは事実だが、まだそこまではしていない。

まず、公共の施設でセキュリティの担保された Wi-Fi を使っているいろんなサービスを受けるあるいは情報発信するということになれていくことが、市民のデジタルリテラシーを高めることにつながると思う。また、学校教育の観点で言うと、今、学校の中の Wi-Fi 環境はそれなりに整っているが、学校の外の環境、いつ、どこにいても子供たちが1人1台タブレットを使って、学習できる環境を整えることが必要だと思う。

事務局から説明を受けたことは全部賛成だが、これを誰がやるのかというのがすごく気になる。市役所が頑張るのだと思うが、人の問題、お金の問題があり、ものすごく難しいことだと思う。今国では、学校教育においても、こういうツールを使った教育に対して、随分大きな予算を出している。総務省でも地域デジタル基盤活用推進事業で大きな予算がある。こういう補助を取りに行くには、そういう戦略を描ける人たちが必要。デジタル化推進班の人たちが中心になるだろうが、市役所の中のいろんな課の人たち集めないといけない話ではないと思う。

そういう意味では、市役所内の DX、前にも言ったかもしれないが、市役所の、それなりの責任のある立場—課長職ぐらいの人—が、みんな DX に対する意識を持つということが大事である。その上で幾つかの課を統合して、どういう住民サービスが DX でできるのかを検討する。そういうことを、きちっとやっていかないといけない。

また、市役所の最終的な下請機関は自治会である。市内には九つの自治連合会があり、私はそのうちの一つの自治連合会の会長を2年やらせていただいたが、DX どころではなく、ネットを使える人は3人しかいなかった。まだまだそういうところを底上げしなければいけない状況である。それで、具体的なことを聞きたいのだが、結ネットを実証実験として導入しているようだが、どのような効果があったのか、ぜひ聞かせて欲しい。

もう一つ教育の面で言うと、1人1台端末が配られ、便利な道具だからうまく使えばいいなと思っはいるけれども、申し訳ないけどまだまだ先生方のリテラシーが高くはない。全国的に見ると、非常にうまく運用しているところもあり、教育用ダッシュボードをうまく使って、例えば、「今日、子供が調子悪いから休みます。」といった

データが、父兄のスマホからちゃんと学校に届くような仕組みを作られている。あるいは一人一人の子供が、今日の心の状態はどうだったかということ、子供自身が投稿でき、学校の関係者も見られるような教育用のダッシュボードが運用されている。こういったものも、ぜひ取り入れて欲しいと思う。

また、「AI の活用」というのもあったが、AI ドリルも少しずつやっていくように聞いてはいますけど、今後どんなふうに進めていくのか気になっている。

会長：

今ほどご意見いただいた点について、市役所の取組については、一生懸命やっているが、少し弱い面もあったので、そこをもう少し力を入れて取り組んでいきたい。

また、結ネットについては、全ての町内会で導入できるようにしたいと思っており、そういう方向で、予算について検討していきたいと考えている。

学校について、休暇の連絡であるとか、あるいはAIドリルなどについて、何かあれば教育委員会で発言いただきたい。

委員：

まず、AIドリルについては、今は導入していない。デジタルドリルということで、紙ドリルにかわるようなものが今やっと入ったところで、やっとそこが動き出したところなので、AIドリルについては、まだこれから時間がかかると思っている。

保護者からの連絡等については、来年度から全ての学校においてシステムが導入され、先ほど言われたような形（スマホからの欠席連絡）になっていく予定。

委員：

今のAIドリルもそうだが、1人1台端末をいつでもどこでも使え、学校で学んだことが家庭でも学べるということに取り組んでいくことが必要。国は、「メクビット」というシステムを用意しているので、それをうまく使えば良いと思っている。

また、これも国の事業だが、GIGAスクール運営支援センターを国がサポートするように各地域で市の運営支援センターをつくってサポートする仕組みがあれば、先生方が、ネット環境などの技術的なところは一切関わらなくてすむということで、国は設置を推進しているが、市ではそういう構想はないのか。

事務局：

今県内の自治体が合同で、GIGAスクールの運営サポート支援センターをつくれないうことで、話をしているところ。今後、確実に入りますということとは言えないが、県も前向きに導入を検討している。

委員：

先ほど話題になったWi-Fi環境だが、何となく市民からして微妙な場所にしかないなと思う理由の一つが、Wi-Fiの整備に出される国の補助金の対象が、一つはインバウ

ンドで、もう一つは防災分野だった。県で推進していたのも、インバウンドに使う Toyama Free Wi-Fi の整備をするのであれば補助金を出すといった形であったし、避難所等に Wi-Fi を整備するのであれば国の補助金が出ますといった感じで、市民が普段の生活で使いたい場所に Wi-Fi が設置されるかどうかとはまた別の観点で場所が決まっていた面もあると記憶している。

そういった場所の Wi-Fi の場合、恐らく今後ヘビーユーザーになるのではないかと思うのは児童・生徒で、1人1台タブレットを持っているが、そのタブレット自体は通信が出来ないので、Wi-Fi がないと利用できない。ほぼ全ての児童が、自宅の Wi-Fi でタブレットを利用できるが、一部は親の携帯のテザリングで対応している。なので、親が帰ってくるまでは繋がらないという児童もいる。今、放課後児童クラブでの Wi-Fi 整備の話も進んでいると思うが、その他の公共施設など児童が見学に行った場所でも Wi-Fi を利用できると、写真を撮ってその場でレポートを上げるということもできて良いのではないかと保護者目線では思っている。

いろんな課を横断して実現していく政策が多いと思うが、多岐にわたる DX 化について、どれがどう進んでいるか一覧にして検証する場がない。滑川市の DX 化という意味で、ポータル的なものがあれば、この目的に関しては今こういうことをやっていて、今どれくらい進捗しているというのが分かって、市民としても、「いやもっとやってくれ」とか、「こっちが全然進んでないぞ」といった意見が言いやすい。また、5年後という話でいうと、IT 関係の技術では、今は大きな会社じゃないと導入は無理と言っているものが、下手すれば無料で使えるようになるということが起きる。なので、取組を付け足すなどの見直しをしていくためにも、全体を一覧で確認できる場所があれば、DX 懇話会だけでなく市民が見て意見を出していくことができ、施策が磨かれていくのかなと思う。

会長：

一覧として見れるポータル的なものが必要というご意見は、他でもいただいたことがあるため、そういった点は検討する。また、1、2年で技術が変わってくる部分もあるため中長期的なことも考えていく必要があると思う。

委員：

今の話で1点気になったが、親のスマホをルーター代わりに使っている家庭があるということであったが、そういう家庭のために、国はルーターを準備したが、全然使われていないというデータが出ており、文科省も非常に困っている。滑川市でも、そういう家庭に貸与するルーターを相当数準備したはずなので、先ほどの話のようなことは起こってないという認識でいたがどうなのか。

事務局：

ルーターはあるが、通信するための SIM カードの費用を誰が負担するのかという点で課題があり、活用が進まなかったというのが現状。

岩本 CDO 補佐官：

ルーターは国で用意するが、SIM カードは各家庭で用意するということか。

事務局：

そのとおり。

委員：

国は SIM カードと当然セットで、使える状態で渡していると認識していた。文科省に確認しておく。

委員：

2 点、質問とお願いになるが、まず、デジタル化を進めるに当たっては、それ相応の予算が必要になると思うが、今の段階でどう進めていこうという見通しがあるのかを聞かせていただきたい。

会長：

この計画の中に重点施策として記載しているものについては、予算化して執行していこうと考えている。このため、そうした予算措置をしていくべきではないかと思うものについて、ぜひご意見をいただきながら、つけ加えていきたいと考えている。

委員：

もう 1 点、「デジタル機器を持たない・利用できない方であってもデジタル社会から取り残されないように」と書いてあり、そのとおりだなと思って聞かせていただいた。自分の親を見ててもそうだが、やはりデジタルに弱い。デジタルで恩恵を受ける人と流れについていけない人が出てくると思うため、そういう人を見捨てないでほしいということで、デジタル化推進のアクセルと、そういう人を見捨てないように、見守っていくようなブレーキというか、使い分けをしていただきたいということと、滑川のデジタル化は、市民に優しいデジタル化であってほしいと願っている。

委員：

私は商工会議所の観光委員長をしており、3 年前から、Wi-Fi の普及ということで市の方に何度もお願いしてる状況。また、観光協会という立場でも、アフターコロナで滑川市に、市外、県外、海外から少しでも多くの人を呼び込んでいきたいという中で、デジタル活用の一つとして、Wi-Fi の普及ということをお願いしている。滑川市全体の Wi-Fi の普及率としてはまだまだ低いと思うので、まずは普及をお願いしたい。

もう 1 点、重点項目の市役所の DX の中に、「滑川市 LINE 公式アカウントの友だち数」と書いてあるが、これは誰でも友だちになれるのか、また、どういう情報が見られるのか。

事務局：

市民に限らないが、誰でも友だち登録できるため、ぜひ登録していただきたいと思う。どういう情報を見られるかということだが、今現在は、友達登録していただいた方に市から、いろんなイベント情報や、コロナの注意喚起などの市からのお知らせを発信している状況。

今後は機能を拡充し、自分が欲しい情報だけを選んで取得できるとか、LINE から様々な申請をしたり、決済も出来たりといった方向へ進めていきたいと思っている。

委員：

町内会のデジタル化について、いつまでに9地区で導入しようというスケジュールは考えているのか。

会長：

先ほどの説明を補足すると、町内会での情報共有や回覧版代わりに使える「結ネット」というアプリがあり、それを使うと、すごく便利に情報が共有できるようになる。基本的な考え方として、全ての町内会に導入していきたいと思っているが、スマホを使っていない方や、「使いにくい」という方もいると思うので、誰一人取り残さないという考え方のもとに、回覧板と併用しながら、やっていきたいと考えている。

委員：

確認だが、スマートシティーに絡むところで、センサーを増やしたりカメラを設置、したり、GISのデータを今0件なのを5年後に10件公開するということだが、具体的にどんなデータを拡充していくということを考えているのか。

また、AIカメラは何を学習していったんな分析に使いたいのか、GISもどんな用途で使われるかといことを確認したい。目指す姿として、民間企業と教育機関と行政が使えるオープンデータにして、政策立案の元データとしても使っていくという方針なので、どんな構想を考えているか聞かせていただきたい。

事務局：

センサーデータの活用については、先ほど例として挙げた積雪深、それから、河川の水位測定をまず考えているが、あとは道路のアンダーパスの水位測定なども考えていえる。今県内では、射水市などで先進的に取り組まれているので、そういったところの状況を参考にしながら、比較的取り入れやすく、効果が出やすいものをまず導入したいと思っている。

(株)TAMとも協力していこうとして今進めているところだが、来年から実証的にセンサーをつけてどれだけ効果が上がるのかを測定した上で、実際にサービス、施策として展開していくということを検討している。

それから、GISについては、現在、特に都市計画区域の問合せ等が非常に多く、県外

の事業者からの電話での問合せや、窓口を確認しに来られるケースが非常に多いと聞いている。現状では、紙ベースの図面をお見せしたり、FAX を送付したりという対応しかできないが、より迅速に情報を提供していきたいと思い、都市計画や道路、上下水道の路線網などの情報も公開する予定としている。

さらに、まだ GIS で管理してないような情報—例えば、ごみステーションの位置など、もっと住民に身近な情報を幅広く管理していくことが可能になる。今、特にシステム化されてないようなものであっても、エクセルのデータから、簡単に地図上に落とし込んで公表することが可能になるため、具体的に何をというのはまだ想定出来ない部分もあるが、幅広い情報を公開していきたいと考えている。

また、AI カメラは、例えば、観光施設に設置して人流を把握して、どの時期にどういう方が来ているということ把握し、それをどう観光施策に活かしていこうかということも考えられる。富山市などでは、公共施設の混雑状況を AI カメラで把握、公表しているが、どういった面での活用が効果的なのか、ご意見をいただきながら検討していきたいと思っている。

委員：

イメージが分かった。これらは全てオープンデータとして、いつでも参照できるような感じで公開するというイメージで良いか。

事務局：

はい。

委員：

KPI としては 100 件のオープンデータを公表するということだが、このあたりは実際に進めながら、より良いものをデータとして取っていくという感じか。

事務局：

オープンデータについてはセンサーデータだけではなく、各課が所管する様々なデータをもっと幅広く公開していこうというもの。ただ、何を公開すれば本当に効果があるのか、また、使ってもらえるのかというところが、把握出来てない部分もあるので、そういった部分で、ぜひご要望をいただきたいと思っている。

委員：

先ほどの、Wi-Fi 環境についてだが、専門学校の教員をしているため意見を言いたいのだが、最低限の Wi-Fi 環境は、やはり整備していただけると、本当にありがたい。今日みたいに雪がかなり降った日は、学生に対しては Zoom を利用して、対面とハイブリッドで授業をしたりすることもある。家に帰れば Wi-Fi はあるのだろうが、うちの学生はギガの上限があるような学生が多く、自分のスマホでは授業が受けられるほど、データ容量がなくフリーWi-Fi を探している。そういうところで、公共施設で Wi-Fi 環

境を整備しただけいただけると、そういったときにやはり役に立つのかなと思う。自分は公共施設に行くから、意識的に Wi-Fi をつなげようということはしていないが、こうした環境を整えることで、いつでも使える環境があるということはとても良いと思った。

私は、健康分野の代表という立場だが、市役所の担当部署—例えば健康センター—の方と健康分野で DX により何ができるんだろうということを話す、そういったことを各分野でできると、もう少し具体的な案になっていくのではないかと思った。なので、そういう機会を設けていただけるとありがたい。

委員：

子育ての情報については、今後は LINE でもらえるようになるのか。

事務局：

現在、市の子育て孫育て応援サイトがあるが、今後は LINE の中に希望する情報を簡単に取得できるような機能を追加して、より子育て関係の情報も幅広く発信していく予定である。

委員：

市役所の DX について、職員も知識をつけないといけないという話だと思うが、ロードマップに記載がないので、走りながら勉強するということか。

事務局：

職員のレベルアップについては、県で県職員向けに DX 研修を今年度実施しているが、来年度以降、希望する市町村も一緒にやりましょうという話も出ており、市でも DX 人材の育成という目的で取り組んでいきたいと考えている。ロードマップには記載していなかったが、来年度から、今まで以上にしっかり勉強して継続して人材育成に取り組んでいく予定である。

会長：

今ご意見いただいた人材育成—職員の研修—はすごく大事だと思っており、まずそこからやらないと、いろんな取組につながっていかないと考えている。

委員：

リテラシー向上の取組であるが、出張型のスマホ教室をやるということだが、そういう形だけではなく、動画とかで分かりやすくまとめて、幅広く普及していくというのも有効なのではないか。

事務局：

動画を編集して分かりやすく案内するというスキルを、私自身は持ち合わせていな

いが、いろんな形でリテラシーを向上していけるように、取組を今後考えていきたいと思う。

会長：

一通り委員の皆さんからはご発言いただいたと思うが、足りないことがあればご発言いただきたい。

委員：

先ほど Wi-Fi の関係で質問したが、今滑川市においてはこの本庁も含め、公共の建物、それから第三セクターなどの市の関連施設の Wi-Fi はどれだけ整備されているのか。

会長：

事務局から現状についてお願いします。

事務局：

いくつかの施設のうち、いくつ整備済というのは、今すぐには出ないが、まず交流人口の増加が図られるような施設—ほたるいかミュージアムや市民交流プラザ—そういうところから Wi-Fi の整備を始めた。その後、国の補助が防災施設を対象としていたということもあり、防災の拠点となるような施設—総合体育センターやスポーツ健康の森公園、メリカ、各小中学校—にも Wi-Fi を整備している。

また、昨年度からは、各地区公民館にも、Wi-Fi 環境を整備しており、今年度中には、放課後児童クラブにも Wi-Fi を整備し、1人1台端末を、学校から持ち帰って利用できるようになる。このほか、市役所や健康センター、図書館青雲閣でも Wi-Fi が利用できる状況。

100%ということではないが、一通り必要な施設での整備は進めてきたという認識。ただ、一部 Wi-Fi がつながりにくいところもあるので、そういったところは今後検討が必要と考えている。

委員：

ぜひ児童館も入れてほしい。私は、児童館で子供たちのためのプログラミング教室を実施したが Wi-Fi がなかったため、ルーターを持ち込んで実施した。児童館には、市内外から多くの子供たちが来ているので、ぜひ入れてあげてほしい。

会長：

ご意見を踏まえて検討したい。他にご意見はないか。

委員：

こういった会議そのもの自体のコミュニティーを SNS ではないが立ち上げることは

できないか。先ほど意見があったように、特定の分野で具体的な話をしたりだとか、多様な意見を収集して、限られた時間の中で有効なものにするためには、こういった限定的な会話だけではなく、発言出来なかった意見も含め広く収集したり、市民にも公開できるような形のプラットフォーム的なものはできないか。この人数でそういった対応ができなければ、市民に対する公開プラットフォームは、できないと思うため、こういった会議を参集して行うのも大事だが、この会話の履歴なり、双方向のコミュニケーションができるようなプラットフォームを用意いただければ、ぜひ活用したいので、検討をお願いしたい。

会長：

まだまだ意見も尽きないところだと思うが、予定していた時間になっているので、最後に岩本先生から、全体の意見を踏まえましてご発言いたきたい。

岩本 CD0 補佐官：

まず、Wi-Fi 関係については、実際に設備としての Wi-Fi を整備すべきなのか、イベント時などに貸出しの Wi-Fi ルーターなどで対応すべきところもあるだろう。また、やはり民間が努力して揃えるべきものもある。今日の議論では、全部混ぜこぜになっているため、もう少し整理して議論する必要があると感じた。

KPI のダッシュボード化については、東京都庁でもやっているが、市民に見ていただきながらやっていくのは面白いかなと思う。

また、結ネットについては、やるなら全部で、本当に全町内会でやっていけば良いと思う。先ほど副市長が言われた、「誰 1 人取り残さない」とは反するかもしれないが、私は、「誰 1 人取り残さない」は、「だから一部紙を残す」ということではなく、「誰 1 人取り残さずに全員がデジタルを活用できるようにするための努力を最後までする」ことだと思っている。その方が、スマホを使えないのであれば、家庭に特別に設置したタブレットで表示できるようにするといったレベルでデジタルでやっていくことだと思っているので、そういった方向で、誰 1 人取り残さないデジタル化を進めていくのが良いと思っている。

横断的な取組が重要という話もあったが、デジタル化推進班だけじゃなくて、全課がやるべきであり、いろいろな部署が連携・協力してやっていかないとこういう施策は実現出来ないというのは、本当にそのとおりだと思う。

学校関係についてもいろいろな話題があった。教育委員会の方もいる前で、ちょっと厳しい目になってしまう部分もあるが、やはり、先生のリテラシー向上は喫緊の課題だと思っている。忙しいというのも分かるが、子供たちの長い人生に関わってくるので、先生のリテラシー向上のためのサポートを、惜しまないって形でやっていただくしかないと思っている。冒頭で副市長から小学校のプログラミング大会の話があったが、私も一緒に採点させていただいて、滑川のすばらしい子供が大賞を受賞したが、中学校で続けられる環境がないと嘆いているという話も聞いた。そういったところは非常にもったいないことだと思うので、学校の授業以外でプログラミングを学べる場が

増えてきているのは、それはそれで良いが、やはり学校でも中学生になっても学べるようにしていかないといけないなと思った。

あとは、データ活用の話が出ており、事務局も回答していたが、本当これは、市民の皆さんとどういうデータをどういうふうに活用できるかということを経験できる場—ラウンドテーブルみたいもの—を作ってやっていけたら良いと思っている。

また、健康に関して、デジタルヘルスケアの分野などで何も項目としてないのは良いのかなという点は疑問に思ったので、検討が必要と思っている。

会長：

ありがとうございました。委員の皆様からは本当にありがたい意見をいただいたと思っている。いただいた意見をよく考え、勉強させていただき、計画の中に活かしていきたいと思っている。

最後に事務局から今後のスケジュール等につきまして説明願います。

事務局：

今後のスケジュールだが、本日いただいた意見をもとに、計画の素案を修正し、今のところ1月末頃からパブリックコメントを実施したいと考えている。

また、それに合わせて市議会への計画の説明を予定している。市議会でのご意見やパブリックコメントのご意見を踏まえて、第3回の懇話会で再度計画案を示したいというふうに考えている。後日、日程調整をさせていただきたいので、ご対応をお願いしたい。

本日は、限られた時間であったため、お気づきであってもご発言出来ない部分もあったかと思う。そういったものは、随時、事務局まで、御連絡いただきたい。単なる質問でも構わないので、お気軽にご連絡いただきたい。

事務局：

以上をもって、滑川市DX懇話会を終了します。委員の皆様、本日は長時間にわたってありがとうございました。